

3 事例にみる七つの視点

本報告書で紹介した事例は、子ども同士、大人と子ども、大人同士の交流が中心となっており、それぞれの団体によって、様々な工夫がなされている。

例えば、活動に関わっている人や団体をみると、宇都宮市の「ためきの学校」では、学童保育指導員、野外活動指導者、自然観察員、看護師、伝統技術継承者など、西那須野の「自然体験塾」では、家庭教育オピニオンリーダー、青少年問題協議会、公民館職員、ボランティアグループ、小学生、中学生、高校生、大学生、個人ボランティアというように、たくさんの人が活動に参加・参画していることがわかる。

様々な人がふれあう中で、人は育ち、地域はつくられていく。体験活動・ボランティア活動を中心とした取組のエキスを振り返ってみよう。

(1) 特色を生かした活動プログラム

自然体験、環境学習、伝統行事、読書、レクリエーション、調理、掃除、昔遊び、スポーツ、田植え・稲刈り体験、各種ものづくり体験など、各団体ともそれぞれの特色を生かしたテーマで活動しており、変化に富んでいる。ユニークなものとしては、子どもたちや親子でのものづくりや自然体験を支援するために施設を開放し、会員自らが指導サポーターとなっている「NPO法人自然と人間の森おおひら」の活動や、4泊5日で100kmの道のりを歩く真岡青年会議所の取組、子ども自身がやりたいことを形にして、プログラムの企画から実践までやり遂げている「NPO法人宇都宮子ども劇場」の高学年部の活動等が挙げられるだろう。また、西那須野の「自然体験塾」では、子どもたちが活動している時間に、別室で家庭教育オピニオンリーダーが親を対象として家庭教育や子育てについての講座を行うなどの工夫がみられる。

全体的には、子どもたちの「生きる力」を育むことをねらいとしている活動が多く、様々な人や自然などとふれあう直接体験を中心とした活動プログラムとなっている。

(2) 多様な地域のとらえ方

塩谷町の「東っ子ふれあいスクール」のように、小学校区を単位として活動が展開されているケースが多く、これが最も活動しやすい地域の単位と考えられる。しかし、一方では、小学校区外の協力を得て、広い範囲で地域ぐるみの子育ての気運を高めている都賀町の「ローカルホームステイ」や、下都賀地区の「遊び学びキャラバン隊」のような取組もあり、広域的な展開も視野に入れると活動に広がりが見られる。

(3) ボランティア養成研修

子どもたちの活動を支援するために、ボランティア側への研修を実施しているケースもある。小山市の「プレイリーダーアクティブスクール」や総合教育センターの「ウィークエンド青少年セミナー」のように、高校生・大学生・青年が講座のプログラムの立案やイベント企画の研修を受け、実際に子どもたちの活動の企画・運営を行う事例などである。また、「鹿沼図書館ボランティアKLV」では、自主事業としてボランティア養成講座を継続的に実施しており、真岡市の「キッズ冒険クラブ」でも、中学時代に研修を受けた高校生がリーダーとして子ども対象事業で活躍している。ボランティア事前学習、あるいはスキルアップの学習を経て、その学んだ成果をボランティア活動に生かし、参画していくという視点が重要となっている。

(4) 次世代ボランティアの育成

「鹿沼図書館ボランティア KLV」や都賀町の「ジュニアリーダーズクラブ」、「栃工高ボランティアネットワーク」では、成人や高校生がボランティアとして活躍する姿が、小学生や中学生の目標あるいはモデル的な存在となり、子どもたちのボランティア実践への芽を育てている。次世代のボランティア育成のためには、ひたむきにボランティア活動をする実践者の姿が何より効果的であり、ボランティア活動が日常的に行われている環境の中にあることが、自然にボランティア活動やまちづくりの活動に興味を持っていく第一歩となる。

(5) 子ども会活動支援

真岡市の「キッズ冒険クラブ」や都賀町の「ジュニアリーダーズクラブ」では、市や町の子ども会育成会連絡協議会と連携し、子ども会活動の活性化を目指している。事例では、高校生がボランティアとして活動しているが、そこでは、成人の指導者は前面に出ず、高校生の参画の度合いが高い。子ども会はこの地域にもある地域に密着した団体であり、このような高校生の実践は、様々な地域で実現の可能性がある、小学生、中学生、高校生、育成会員（成人）それぞれにとって有意義なものとなるであろう。

(6) ボランティアにとっての生涯学習という視点

本報告書の事例は、中学生・高校生・大学生・青年・成人がボランティアとなり、小学生（時には中学生）の体験活動などを支援するというケースが多いが、これは、足利市の「やばっこスタッフ」や佐野市の「ちゃいるどりーむ」の事例にみられるように、支援を受ける側の学習になっているだけでなく、支援をするボランティア側の楽しみ、いきがい、生涯学習になっているという点に注目する必要がある。このことは、活動継続の原動力ともなっており、新たな課題の発見や活動の新展開にもつながっていくものである。

(7) 大人のネットワークからまちづくりへ

足利市の「やばっこスタッフ」や塩谷町の「東っ子ふれあいスクール」では、大人の交流からネットワークづくりへと展開している。これらは、まちづくりの活動へと発展の可能性が見られる事例である。また、大人中心のサークル活動、あるいは、子どもを中心に据えた大人のネットワークづくりや交流によって、子どもを地域のみんなで育てる雰囲気醸成され、それが地域づくりにつながっている事例もみられる。

なお、高校生の学校外における学修については、「県立高等学校生徒の学校外における学修の単位認定に関する指針」（平成12年2月）によって目的や単位認定の対象・方法等が規定された。指針を受けて平成12年度から学則を改正した学校において、学校外のボランティア活動等の体験的な活動やその成果を、各学校の判断により当該学校の単位として認定できるようになった。